

札幌のおじさんへ

ラジオネーム…はまなす

おじさん、今年もじゃがいもの美味しい季節が訪れています。おじさんががんでこの世を去ってから三回忌を迎えますね。痛みや苦しみから解放された国はきっと安らかであってほしいと願っています。

おじさんは一言でいうと、公平な人、ひいきのない人だったように思います。

子どもの頃、親戚の集まりでおやつを分けてくれた時も、おじさんの分け方だと、みんなに同じだけくれて喧嘩になることはなかったし、運動会のかけっこで、いところが1等を取ってみんなに褒められたあと、私が4等で言い出しにくかった時も「よく頑張ったな」と真っ先に優しく元気に褒めてくれて、悔しかったけど嬉しかったのを覚えています。

おじさんは優しく物知りで、おじさんの兄である私の父が危篤の時にすぐ駆けつけてくれて、亡くなったときは遠方に住む私たちの代わりに病院から自宅まで付き添ってくれて、家に帰らずそのまま葬儀の手配やお供え物の割り振り、法要の人数確認などやりかたを丁寧に教えてくれて、悲しさと不安の中、とても心強い存在でした。その後も法律に則った相

続の手続きを教えてください、おじさんから教わったことは、一生の財産となっています。

おじさんはとても優しく接してくれたのに、私には後悔していることがあります。それは、おじさんが食べたいなあと言っていた今金男爵をプレゼントできなかったことです。

お土産はいくつか渡したことがあったけれど、今金男爵の手に入らない場所に住んでいたたり、タイミングが合わなかったり、函館に住んでからも「どうせならいいものを探したい」と先延ばしにしているうちにおじさんが亡くなってしまって、申し訳ない気持ちでいっぱいです。特にじゃがいもの季節になると、おじさんのことを思い出します。

おじさん、本当にごめんなさい。

リクエストはおじさんが好きな爽やか系のインストウルメンタルでお願いします。

へ イモニー / パンドラム